

東大見学会感想文

東大見学・企業大学訪問会で見た「最高峰」

①ディレクトフォース

九時に東京に到着し、すぐに向かったのは日本の製鉄会社の最大手、「新日鐵住金株式会社」。丸の内に本社を構える大企業である。この訪問会は仙台二高 OB 方の協力で実現した企画らしい。そう、普段は滅多には入れない場所である。

そんな大企業の会議室で行われた企業説明では、ふだんはあまり耳にしないう新日鐵住金という会社についての話を聞いた。日本一位、世界二位の鉄鋼メーカーで、金属の精錬から加工までを行っているそうだ。最も印象に残っているのは社内での挨拶「ご安全に」。大企業の長い歴史を感じさせてくれる。

その後行われた社員の方達との懇談会。高校時代に身につく社会で役立つスキルについて話し合った。やはり仕事においては団結力が大切で、その力は部活動において身につく要だ。社会に出るとよりコミュニケーション能力が必要になるとのこと。高校時代には勉強だけではいけないらしい。

②企業大学訪問

マクドナルドで昼食をとった後、訪問先である「有限監査法人 トーマツ」に向かった。私が訪問先が会計士事務所であると聞いた時に想像したのは3階建てくらいの小さな事務所、数人の会計士である。

しかし、それは大きな間違いであった。なんとといっても訪問先は日本最大手の会計事務所である。まず建物からして違う。丸の内のオフィスビルの5フロアをもち、所属する公認会計士は3000人を超える。日本だけでなく海外にも展開し、グループ全体の人数は10万人ほど。そんな会計事務所の本部である。

そんなところに訪問した我が班。実はエレベーターの中ではみんな緊張していた。それが中へと案内された瞬間感激へと変わった。窓からは東京駅が見える。ああ、僕らは日本の会計士界の最高峰にきてしまったのだ。職員の方から公認会計士とは何かについての一通り説明があった後、班員はそれぞれ自分の疑問をぶつけた。私が質問したのは「仕事がつらいと感じる時とやりがいを感じる時」についてだ。

それに対する答えはそれぞれ、「業績が悪いことを会社の人へ伝えるとき」と「自分の助言を受け入れてもらった時」だそうだ。なるほどこれは実際に聞いてみないと分からないことだ。業績が悪いことを伝えるには「伝え方」が大事になるらしい。やはり大事なのはコミュニケーション能力のようだ…。

その後会計士がたが実際に働いているオフィスを見せてもらった。多くの難しそうな本がたくさん並んでおり、その一つを手にとってみると会計関連の事項がすべて英語で書かれていた。こんなところでも英語を使うのかという思いと同時に、自分は将来こんな世界で生きていかねばならぬのかと思い、改めて日々の努力の大切さを理解したような気がした。

会議室に戻ってアニメを鑑賞した後、全員で記念撮影をし、班でお礼を言って帰った。今回の訪問で得たのは、お土産のTシャツや缶バッジだけではない。働くということ、夢を叶えるために努力するということだ。また、いつもはふざけている班員の意外な一面も見る事が出来た。公認会計士の受験者数は年々減っているらしい。資格の取得までは数年かかるが、それにチャレンジしてみるのもいいかもしれない。大切なのは夢を持ち続けることだと学んだ。

③OB・OGによる懇談会

ホテルで夕食をとり、階段の場所が分からないために部屋に帰れなかった後、東大や一橋大に進学した偉大な先輩方との懇談会が始まった。

はじめの自己紹介では大学と今やっていることについてお話をいただいた。さすが天才達、たとえば世界一周、会社の設立などの思いもつかないことをしているようだ。これが自分と同じ二高生だったのかと思い感激した。やはり仙台二高はすごい学校ようだ。そんなことを考えながら一回目の席移動。僕らの班の席に座った方からはどれくらい勉強をしたのかななどを教えてもらった。東大に入る人は皆自分なりの勉強法を持っているような気がする。それは次に座った方も同じで、「1・2年の間はひたすら英語やれ」とおっしゃっていた。はい、やはり日々の積み重ねが大事なようです。私ももっと勉強しなくては。

最後の総席替えでは我らが物理部出身の先輩のお話を伺った。この方は東大で様々な研究をされているようで、私には難しすぎる化学の話などをされていた。東大ではほかと違って文系・理系の境界がはっきりしていないようで、多分野にまたがった研究が出来るらしい。これ私にとっては最高だ。この懇談会を終えて私は例に漏れず「東大に行きたい」と思うようになった。私はまだ文系か理系かをはっきりと決められていない。なぜならどちらにも興味があるからだ。そんな私にとって東大は最高ではないか。

しかしながら、そこには大きな壁が立ちはだかっている。それは「学力」である。中学校の頃は勉強ができる方だったのだが、二高で全国というものを知った。そんな私にもこの会は希望を与えてくれた。前期中間が良くなくても東大に入った人はいる。肝心なのは地道な努力だそうだ。

また今回、学問のおもしろさを知ることが出来た。最後に話を伺った先輩は、技術を突きつめると経済学が必要になるとおっしゃっていた。まさしくこれは文系、理系に縛られない学問だ。大学に入ったらそんなことをやってみよう。ということで大学でやりたいことをやるためにも、英語をがんばろう。

④東京大学見学会

満員の京浜東北線・東京メトロに乗ってやってきたのは日本の最高峰、「東京大学」。

有名な赤門を通って中に入ると長い歴史を感じさせるような建物がずらりと並んでいる。テレビでしか見たことのない安田講堂などを少し見てから、我が班の志望学部である経済学部へと向かった。模擬講義の受付を済ませ、大きな講堂に入った。そこには全国から集まった天才達。どの人を見ても「頭いいんだろうな」と思ってしまう。そんな環境で受けた一講目は「数字で企業を読み解く―入門・財務分析―」。会計に関する授業で、マクドナルドとモスバーガーを経済学的視点から比較するというものだ。前日に会計事務所に行った私としては非常にタイムリーな話題で、興味深かった。

二講目は「高校数学から学ぶ経済学」。どうすれば生産効率が上がるのかという「比較優位の原理」を簡単な高校数学で証明するというテーマだ。最近習った数学を使って経済学を解き明かすのはおもしろかった。

最難関の東京大学ではあるが、わかりやすく、簡単な授業をしてもらい、内容も理解できた。やはり経済学は奥が深い、そう思えるような授業だった。授業を終えた後、混んでいる学食に行ってみた。食べたラーメンの価格は手ごろで、味も至って普通。東大生はこんなものを食べているのかと思い、最難関が身近に感じられた。

その後は、第二志望の工学部に行ってみようと思ったがやっていなかった。図書館で涼もうと思ったが、立ち入り禁止になっていた。仕方なく我が班は経済学部の建物に戻り、そこで時間をつぶした。あまり有意義なものであるとはいえないだろうが、東大の雰囲気を感じることが出来た。

今回の見学では、今まで遠い存在であった東大が身近に感じられるようになった。東大だって簡単に入れるような気がしたが、現実派そうではないだろう。見学会の途中、多くの外国人を見た。ドイツ人や中国人の団体。もしかして大学受験の敵は世界なのではないか。だとしたらやはりもっと日々の勉強をがんばらなくては。そう感じる見学会になった。